



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

免疫について考える昨今

[当法人業務執行理事]

杏林大学/近藤医院

近藤 琢磨 [医師]

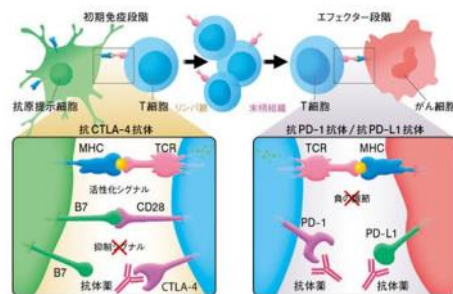
二度目の緊急事態宣言が延長され、新型コロナウイルス感染症との長期戦はまだまだ続きそうです。3月になり日本国内でもようやくワクチン接種が解禁となり、医療従事者から少しずつ開始されています。最近のテレビ番組もご多分に漏れずワクチンの話題が中心で、「中和抗体」とか「ブースト」といった専門用語が飛び交っています。この感染症の拡大は、これまでになかったほど「免疫」について考える機会を与えてくれたともいえるでしょう。

免疫といえば、2018年に免疫チェックポイント阻害因子の発見とがん治療への応用により、京都大学名誉教授の本庶 佑先生がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。ちょうどその頃から、様々ながんに対する免疫チェックポイント阻害薬による治療が急速に広がってきています。ニボルマブを例にとると、悪性黒色腫、非小細胞肺癌に始まり、尿路上皮がん、腎細胞がん、頭頸部がん、食道扁平上皮がんなどが既に適応症とされ、その他の固形がんに対しても治験が進んでいるのが現状です。現在使用されている免疫チェックポイント阻害薬は、作用点の違いから抗PD-1抗体、抗PD-L1抗体、抗CTLA-4抗体の3タイプの製剤に分類されます(図参照)。

それに伴い、いわゆる「免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象(irAE: immune-related Adverse Events)」が問題になっています。特に、甲状腺疾患や下垂体疾患など内分泌疾患の新規発症が多数報告されており、その中にはいわゆる劇症1型糖尿病の発症も報告されています。(今年1月に開催された日本糖尿病学会関東甲信越地方会でも多くの症例が発表されていました。)

通常、劇症1型糖尿病は、感冒症状や悪心、嘔吐、腹痛といった消化器症状が約70%の症例で認められること、さらに口渇、多飲、多尿など高血糖特有の症状が数日間で急激に出現することが知られている。したがって、免疫チェックポイント阻害薬投与開始後はこれらの症状出現に留意する必要があるのはもちろん、がん治療を行っている当該科と内分泌代謝を専門とする診療科のメディカルスタッフを含めたスムーズな連携が求められます。さらに一般内科診療でも、がん治療を行っている患者さんの中でirAEが出現する可能性もあることから、使用薬剤等は小まめに確認していくことが重要です。

免疫チェックポイント阻害薬の作用機序



日本医事新報、4788、2016

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 経口血糖降下薬について誤っているのはどれか、2つ選べ。

(答えは2ページにあります)

1. α -グルコシダーゼ阻害薬は多糖類から二糖類への消化を阻害する作用を持つ
2. SGLT2阻害薬は消化管におけるブドウ糖やガラクトースの吸収を抑制する作用を持つ
3. ビグアナイド薬の副作用に乳酸アシドーシスがある
4. チアゾリジン薬の問題点として体重や骨折頻度の増加があげられる
5. 一部のSGLT2阻害薬の1型糖尿病患者への適応拡大に伴い、ケトアシドーシスの増加が懸念されている



報告

第5回薬剤師による既往歴妊娠糖尿病を考える会

日時: 令和2年12月21日(月)
オンライン

[当法人理事] 杏林大学医学部付属病院 小林 庸子 [薬剤師]

2020年を迎え、3月3日の研修会開催の準備を開始した。いつものアットホームな会になる予定であった。ところが2月、感染状況は悪化し「当法人として研修会は全て中止とする」となった。研修会が再開できずに秋も終わりにかけた頃、某会議で「GDMの会は、今年は何もやらないですか？」と。開催したい気持ちは十分あり、Zoomもだいぶ慣れてきた。オンライン開催を決定した。

第1部の講師は、杏林大学医学部(糖尿病・内分泌・代謝内科)近藤 琢磨先生をお招きし、「妊娠糖尿病に関する基礎知識と実際の対応」をご講演頂いた。年齢とGDMの発症率の関係、診断基準やガイドラインのご紹介、さらに、新たに公開された「妊娠中の糖代謝異常のスクリーニング～COVID-19パンデミック対応」について、詳細にお話し頂いた。第2部は、Zoomのチャット機能を利用した参加者からの質疑応答である。多くの質問が入力されたが、いつものアットホームな感覚にならない。先生と委員は「顔出し」しているが、参加者は黒い画面にお名前だけ。ルール通りで仕方がないが、途中で顔出しをお願いするも、かなわず。皆様の反応が不明であり、「私たちの普段の会話を見る会」になっているのでは？という不安のまま終了した。終了後、参加者にメールでアンケートを送信した。アンケート結果から見ると、画面の向こうで、ご満足いただいたようである。また、次のオンライン開催を検討したい。

報告

西東京CSII普及啓発プロジェクト 第19回研修会

日時: 令和3年1月19日(火)
オンライン

[当法人会員] クリニックみらい国立 岡崎 扶美恵 [看護師]

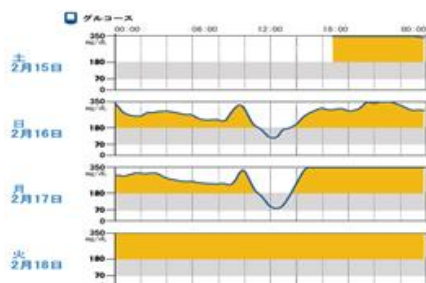
「西東京CSII普及啓発プロジェクト 第19回研修会」が、2021年1月19日コロナ禍において緊急事態宣言が出されている中、オンラインにて開催されました。この研修会は西東京地域のCSII療法・その他の普及を目指して、体験的学習や体験談などを中心に構成しています。今回は高齢者のインスリン療法や血糖モニタリング・そのコントロールについて現場からの症例・その他を発表しながらディスカッションを行うというものでした。オンラインを通じて色々な場所から45名の方にご参加いただきました。

3題の演題発表があり、看護師の廣澤 由姫先生から「高齢1型糖尿病患者がアルツハイマー型認知症を発症し、インスリン注射が困難になった事例」として10年の経過中、認知症の進行とインスリン注射、血糖測定の持続を家族や訪問看護師と連携しながら安全な療養生活を送るために関わってきたことが話されました。自己管理ノートの振り返りで記載の変化に気づいたことも紹介されました。

山本 直之先生からは「当院における高齢者の血糖モニタリング」の発表があり、最初に持続血糖モニターの種類・違い・特徴・保険適応・医学的適応についてわかりやすい説明がありました。高齢者糖尿病の特徴をふまえてレトロスペクティブCGM(リブレプロ)を活用することで、血糖測定の値だけではなかなか理解できない血糖変動を線で見ることができ、患者と医療者がお互いに理解ができ薬やインスリン注射の変更ができた事例をご紹介いただきました。

宮城 調司先生からは「高齢者とCGM」として、リブレプロ活用で低血糖を減らしコントロール改善ができた2例と印象に残っている高齢者糖尿病6症例の紹介がありました。高齢認知症夫婦で注射、脳梗塞後の麻痺をもちながらの注射、視力障害の方の注射指導、介護サービスとの連携・作業療法士が関わった例、訪問薬剤指導を入れた例など、私たちの診療に役立つ症例でした。高齢者の血糖目標、コロナ禍での目標やCGMは高齢者の治療に有用かなどの意見交換がされました。ますます介護の現場との連携が必要になってくる中、介護の現場でもCGMの解釈ができるような支援をしていく必要があるという意見も出ました。

最後に炭谷先生から、「本日の症例から診療に役立つヒントを多数いただきました」、「自己血糖測定の記録も直近の比較も大事だが年単位の比較もすることで認知機能の変化に気づくことができることがわかりました」、「CGMを生かすためにも生活記録は大事なので記載方法の見本の紹介は役立てたいと思います」などのお話があり、「今後の診療においてより安全な高齢者の血糖管理を目指していきましょう」と締めくくられました。





第58回日本糖尿病学会関東甲信越地方会

令和3年1月30日(土)～31日(日)

Web開催

東京都立多摩総合医療センター

川崎 元樹 [医師]

第58回日本糖尿病学会関東甲信越地方会は、東京都大田区の産業プラザPiOで開催予定でしたが、コロナウィルス感染症の流行のため、インターネット上でのオンライン配信によるWeb開催となり、ライブ配信は1月30日～31日の2日間、オンデマンド配信は2月26日までの約1か月の期間で開催されました。

学会会場まで足を運び、病院外のような先生と意見交換し、おいしいご飯を食べ、観光を楽しむのも学会の醍醐味の一つで、それが無くなってしまうのは残念な気持ちになります。一方で、Web開催は天候の影響を受けず、空いている日に自宅からMyパソコンでドリンク片手に気軽に参加でき、スライドも大きく見え、メモも取りやすい等々、オンラインならではの良い点もあります。コロナウィルス感染症が落ち着いたら、現地+Webのハイブリッド開催にも期待したいところです。

今回の学会では、当院内内分泌代謝内科の小藤 知輝先生が、30歳代と若年ながら高度の肥満やコントロール不良の糖尿病などの併存疾患を多数持ち、コロナウィルス肺炎で一時重症化したものの、人工呼吸管理を含めた集中治療により救命できた方の症例報告を行いました。コロナウィルス肺炎で入院や集中治療を必要とする方の大部分は高齢の方ですが、稀に若年の方も含まれます。その場合は、ほぼ確実に肥満、高血圧や糖尿病など生活習慣病を持っており、特に「健康診断を受けていない」「以前指摘されたがずっと放置していた」というパターンが多い印象があります。コロナウィルス感染症を契機に様々な社会問題が表面化する中、あるコメンテーターの方が、『コロナウィルスは「うやむやにしていたこと」をあぶり出す巧妙なウィルスだ』と指摘していましたが、生活習慣病においても、まさにその通りだと感じています。

さて、今年インスリン発見から100年の節目の年で、注射薬の進歩に関するセッションも印象的でした。最近では超超速効型インスリン製剤や、持効型インスリン製剤とGLP-1受容体作動薬の合剤が上市され治療の選択肢が広がっています。また週1回投与のインスリン製剤 (Icodec)、GIP/GLP-1受容体Dual agonist (Tirzepatide) やGLP-1/グルカゴン受容体Dual agonist (Cotadutide)の臨床試験も順調に進んでおり、その高い臨床効果が注目されています。また、インスリンの経口製剤はまだ開発半ばですが、今まで注射薬しかなかったGLP-1受容体作動薬の領域にはリベルサスという経口薬が2021年2月に上市されました。糖尿病の患者さんの治療選択肢が増え、治療負担が少しでも小さくなることを願うばかりです。

最後になりますが、2018年4月から1年間、神戸の隈病院で甲状腺診療の修練を積むため関東を不在にしておりましたが、2019年4月から多摩総合医療センターの内分泌代謝内科に戻って診療を行っています。今後とも皆様からのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 2 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. α -グルコシダーゼ阻害薬は二糖類から単糖類への消化を阻害する作用を持つ
2. SGLT2阻害薬は、近位尿細管においてグルコースの再吸収を阻害して尿糖排泄量を増加させる



研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 第25回 南多摩糖尿病教育研究会

 申込必要

テーマ：『基礎からわかる「糖尿病と妊娠」』
 開催日：2021年4月6日（火）19:00～21:10
 参加方法：Microsoft Teamsにて開催いたします
 申込：メールにてお申し込みください（4/2締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

 参加費
無料

 オン
ライン

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第20回研修会

 申込必要

テーマ：『血糖曲線から生活療養・薬物療法を探る～患者教育と多職種連携のあり方』
 開催日：2021年6月1日（火）19:20～21:00
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円
 申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/1締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

 オン
ライン

 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第69回例会

 申込必要

テーマ：『コロナ時代に臨む医療連携と療養指導の新形式』
 開催日：2021年6月10日（木）19:20～21:00
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円
 申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/5締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位
 ☆日糖協療養指導医取得のための講習会

 参加費
無料

 オン
ライン

 西東京CDEの会 第19回例会

 申込必要

テーマ：『新しい「糖尿病診療ガイドライン」と「糖尿病治療ガイド2020-2021」を解説します！』
 開催日：2021年6月12日（土）15:30～19:00
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 参加費：当法人会員 1,500円 / 一般 2,500円
 申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/2締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

 オン
ライン

 2021年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

第17回 西東京教育看護研修会 第5回 西東京臨床検査研修会
 第17回 西東京病態栄養研修会 第5回 西東京運動療法研修会
 第17回 西東京薬剤研修会
 開催日：2021年7月11日（日）9:40～16:35
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 参加費：申込時期によって価格が変わります
 早割[申込開始～5/23] 6,000円 / 通常[5/24～7/5] 7,000円
 申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の
 「2021年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」より
 お申し込みください。（7/5締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位
 ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中

 オン
ライン

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
 https://www.cad-net.jp/
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。当院でもてんやわんやで準備し、なんとか接種体制を整えました。2回目の接種後に発熱が15%程度、倦怠感等が50～60%程度の人に見られるとのデータがあるので、勤務の方にも影響が出そうですね。一般市民への接種が完了するまでにはまだ時間がかかりますが、感染終息が1日でも早く訪れることを祈るばかりです。 （広報委員 杉山 徹）